

パラグアイ内政・外交（２０２３年６月分）

政治情勢

1 内政

（１）新政権移行に向けた動き

６月８日、アブド大統領とペニャ次期大統領は共同記者会見を開き、公式に政権移行プロセスを進めていく旨発表した。アブド大統領は、「８月１５日以降の政権運営に関して、次期政権のチームが公共政策や計画を構築するために必要なすべての情報を入手し、秩序ある移行を行えるよう、今日から正式にそのプロセスと作業スケジュールの構築を始める」と述べた。ペニャ次期大統領は、「パラグアイの政治的・経済的健全性にとって、またすべてのパラグアイ国民にとって非常に重要なこの移行プロセスを始めてくれたアブド大統領に心から感謝する」と述べ、両者の良好な関係をアピールした。

同記者会見では、アルゼンチンのプエルト・イグアス市で７月４日に予定されるメルコスール首脳会合に、アブド大統領がペニャ次期大統領を招待したことも発表された。

（２）新国会発足

６月３０日、新上下院議員の宣誓式が行われ、上院及び下院の執行部が選出された。

上院に関しては、与党コロラド党内の合意形成にいたらなかったものの、投票では４５議席中３０票の賛成により、シルビオ・オベラル議員（カルテス派）が議長に選出された。対抗馬となった野党上院議長候補には今回初当選のエドゥアルド・ナカヤマ議員（リベラル党、日系人として初めて国会議員に当選）の名が挙がり１１票を獲得。２名が欠席、２名が棄権した。オベラル新上院議長は、憲法及び関連規則の尊重を保証すると発言。また、民主主義においては多数決がものを言うとして述べ、ペニャ次期大統領は計画の実施を円滑に進めるため仲間を求めているとし、カルテス派が重要ポストを独占している点については否定した。上院執行部は以下のとおり。

議長 シルビオ・オベラル議員（コロラド党・カルテス派）

第一副議長 アルナルド・サマニエゴ議員（コロラド党・アブド派）

第二副議長 エルメリンダ・アルバレンガ議員（リベラル党）

下院では、８０議席中５８票（コロラド党議員４８名、野党議員１０名）の賛成により、ラウル・ラトレ議員（カルテス派）が議長に選出された。事前に成立していたコロラド党内の合意に、１０名の野党議員が賛成に回った。対抗馬のカルロス・ペレイラ氏（リベラル党）は２０票を獲得。１名が欠席、１名が棄権した。ラトレ新下院議長は、ペニャ次期大統領が重視している雇用創出、保健、治安、教育に力を入れていくと発言した。下院執行部は以下のとおり。

議長 ラウル・ラトレ議員（コロラド党・カルテス派）

第一副議長 カルロス・アレチェア議員（コロラド党・アブド派）

第二副議長 マルセロ・サリーナス議員（リベラル党）

コロラド党議員とともにラトレ新下院議長を支持した10名の野党議員に対し、野党からの批判が殺到した。また、オベラル新上院議長を支持した（アルバレンガ第二副議長を含む）リベラル党議員5名に対しても、カルテス陣営から賄賂を受けて裏切り行為をしたとして同党内から批判が噴出した。

2 外交

（１）次期外務大臣の選出

6月8日、ペニャ次期大統領は自身の SNS にてラミレス元外相を次期外相に任命することを発表した。その後、ラミレス次期外相はラ・ナシオン紙のインタビュー記事にて自身の外交方針について明かし、特に中国・台湾関係に関しては、中国とも関係構築のための対話を進めていくも、台湾との伝統的な友好関係に基づく外交関係はゆるぎないものであるとした。

（２）国連経済社会理事会（ECOSOC）理事国選出

6月8日、2024年～2026年任期の ECOSOC 理事国選挙が行われ、パラグアイは中南米グループでハイチ、ウルグアイ及びスリナムとともに理事国に選出された。今回の選出に関し、パラグアイ外務省プレスリリースにて、「パラグアイの ECOSOC への参加は、持続可能な開発と平等を約束するグローバルなアクターとしての役割を強化する上で不可欠である。同機関への積極的な参加を通じ、パラグアイはより公平で公正な世界の創造に貢献し、その経験を分かち合い、他の国々と手を携えて共通の課題に立ち向かっていく」とした。

（３）アリオラ外相のバチカン市国訪問

6月14日～16日、アリオラ外相はバチカン市国を訪問した。15日、アリオラ外相は同市で行われたオペラ・ロマーナ・ペッレグリナッジ（世界の主要なキリスト教遺跡への巡礼を促進し、組織することを目的とする観光機関）主催のパラグアイ観光プロモーションの立ち上げイベントに参加した。

また、アリオラ外相は16日、駐バチカン・パラグアイ大使館の落成式に出席した。同大臣は訪問中、バチカンのポール・リチャード・ギャラガー国家・国際機関関係長官と謁見した。

（４）アリオラ外相の OAS 総会出席

６月１６日～２３日、アリオラ外相は第 53 回 OAS 総会出席のため、訪米した。

２１日、アリオラ外相は米州機構（OAS）第 53 回総会の枠組みで開催された「常設オブザーバーとの代表団長対話」に参加した。同大臣はスピーチの中で、OAS、加盟国、オブザーバー間のパートナーシップと共同作業を引き続き強化することへの関心を表明するとともに、４月３０日に行われた総選挙に際する OAS 選挙監視団の派遣に対する貢献について謝意を表明した。

アリオラ外相は気候変動やパンデミック、紛争など、各国が地域的にも世界的にも直面している複雑な課題についても言及し、諸課題に各国が協力して対処することの重要性を強調するとともに、パラグアイ政府は OAS 及びオブザーバー国との実りある協力を引き続き拡大・深化させていくとの決意を新たにした。

（了）